

# 検審疑惑追及の志岐武彦氏が 『一市民が斬る!! 最高裁の黒い闇』を刊行

本誌2014年4月号を皮切りとする短期集中

連載(検察審査会と最高裁の闇)において、小沢

一郎議員に対して2度にわたって起訴相当議決を

下した東京第5検察審査会の「架空議決疑惑」に

鋭くメスを入れた「一市民」こと志岐武彦氏が

『一市民が斬る!! 最高裁の黒い闇—国家の謀略を

追った2000日の記録—』(鹿砦社)を上梓した。

小沢一郎議員に対する強制

起訴を決めた検察審査会には  
審査員がいなかったのではな  
いか。著者の志岐氏はこう

した重大疑惑を読者に提示す  
るとともに、その真相に迫る

べく段ボール箱2箱分にも上  
る資料を独自収集し、それら

を丁寧に分しながら徹底検  
証を試みている。

70歳を超えてもお衰える  
ことを知らない調査能力と執  
念は圧巻だが、とはいえ志岐  
氏はもともと旭化成に勤める  
サラリーマンであり、取材活  
動にのめり込むようになった  
のは定年退職後のことだ。

「退職をして急に暇になる  
と、ぼっかり穴が開いたよ  
うだった」

ご本人はこう心境を語るの  
だが、そんな志岐氏がひょん  
なことから住民運動に参加。

何人もの国会議員に陳情して  
いく過程で徐々に政治に深い  
関心を寄せるようになり、ま

た同時にマスコミの傲慢さや  
イイ加減さに憤り、ひいては

自らが市民ジャーナリストと  
しての活動に乗り出すとい

う、その溢れんばかりのバイ  
タリテイが読んでいて痛快極

まりない。

本書は志岐氏が独自に収  
集した膨大な資料に基づく調  
査報道がベースとなっている

が、つい最近まで定年後の平  
凡な毎日を送っていたリタイ  
ア世代が検察審査会疑惑の真

相に迫るべく関係機関を走り  
回り、ついには国家権力の頂

点ともいうべき最高裁事務総  
局にまで乗り込んで徹底取材  
を敢行する様は、同世代の読

者に大いに勇気を与えるに違  
いない。

ただし志岐氏の市民ジャー  
ナリストとしての活動は決し  
て順風満帆だったわけではな

い。最高裁事務総局の疑惑を  
追及する過程で、同士だった  
森裕子・元参院議員と決別。

追及する過程で、同士だった  
森裕子・元参院議員と決別。  
ほどなくして森氏が志岐氏を  
名誉毀損で民事提訴し、同氏  
がいうところの「恫喝裁判」  
の被告にされたのだった。

仮にも国会議員まで務めた  
人物が一市民のブログ記事を  
問題視して500万円もの損

なかつた。

こうした一連の経過は文字  
どおり不撓不屈のドキュメン  
トであり、単なる調査報道で  
はなく、読み物としても十分  
に心を打つ一冊である。

また他方、ツイッター上で  
はある市民運動家から誹謗  
中傷されもしたが、いかなる  
バッシングにも志岐氏は屈し  
なかつた。

また他方、ツイッター上で  
はある市民運動家から誹謗  
中傷されもしたが、いかなる  
バッシングにも志岐氏は屈し  
なかつた。

また他方、ツイッター上で  
はある市民運動家から誹謗  
中傷されもしたが、いかなる  
バッシングにも志岐氏は屈し  
なかつた。

また他方、ツイッター上で  
はある市民運動家から誹謗  
中傷されもしたが、いかなる  
バッシングにも志岐氏は屈し  
なかつた。

また他方、ツイッター上で  
はある市民運動家から誹謗  
中傷されもしたが、いかなる  
バッシングにも志岐氏は屈し  
なかつた。

また他方、ツイッター上で  
はある市民運動家から誹謗  
中傷されもしたが、いかなる  
バッシングにも志岐氏は屈し  
なかつた。

また他方、ツイッター上で  
はある市民運動家から誹謗  
中傷されもしたが、いかなる  
バッシングにも志岐氏は屈し  
なかつた。

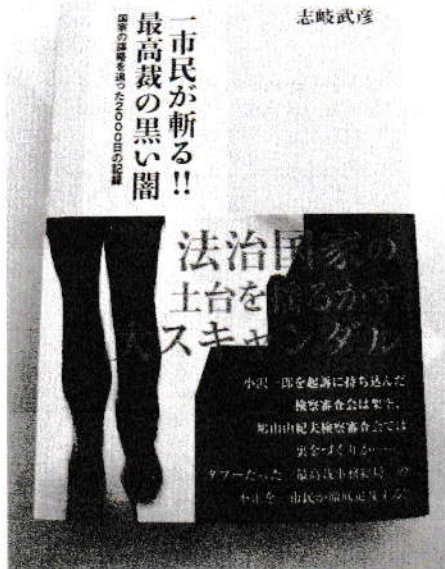
また他方、ツイッター上で  
はある市民運動家から誹謗  
中傷されもしたが、いかなる  
バッシングにも志岐氏は屈し  
なかつた。

また他方、ツイッター上で  
はある市民運動家から誹謗  
中傷されもしたが、いかなる  
バッシングにも志岐氏は屈し  
なかつた。

また他方、ツイッター上で  
はある市民運動家から誹謗  
中傷されもしたが、いかなる  
バッシングにも志岐氏は屈し  
なかつた。

また他方、ツイッター上で  
はある市民運動家から誹謗  
中傷されもしたが、いかなる  
バッシングにも志岐氏は屈し  
なかつた。

また他方、ツイッター上で  
はある市民運動家から誹謗  
中傷されもしたが、いかなる  
バッシングにも志岐氏は屈し  
なかつた。



▲『一市民が斬る!! 最高裁の黒い闇』  
(鹿砦社、四六判・238頁、  
定価1400円=税別)